

概要

- 調査研究課題名「 研究者のノンアカデミック・キャリアパス 」
- 代表者名「 小林 信一 」
- 中核機関名「 独立行政法人産業技術総合研究所 技術と社会研究センター 」

調査研究の目標・概要

１．目的

科学技術基本計画でも指摘されているように、研究開発システムの改革のためには、競争的な研究開発環境の整備や評価システムの改革といった方策のみならず、研究者が、適性に応じて研究開発の企画・管理等のマネジメント、研究開発評価等の幅広い業務（以下、研究開発システム運営）に携わることができるような多様なキャリアパス（ノンアカデミック・キャリアパス）の開拓が求められている。

本研究は、日本における研究開発システム運営の専門家育成方策の遅れを是正するために、諸外国におけるノンアカデミック・キャリアパスの実態および育成の方法を参考にしつつ、実践的な方策を提言することを目的とする。

２．内容

（１）欧米における研究開発システム運営の専門家の職能の特性、ジョブディスクリプション、キャリアパス、育成方法を調査することにより、一般の行政官とは異なる専門性や育成方法を明らかにする。（２）諸外国との量的比較分析等により、研究開発システム運営の専門家がどれだけ必要かを明らかにする。その上で、（３）わが国で専門家育成に何が求められているかを明らかにし、育成方法を実践的に検討する。

３．俯瞰的・融合的視点

一般のキャリアパス研究であれば、社会科学的研究を行えばよい。しかし、研究開発システム運営では、個別分野における専門性に対する注意を払うと同時にあらゆる分野を俯瞰的、総合的に扱う必要がある。さらに、個別分野における専門性と研究開発システム運営との関連性を論じる際には、自然科学、人文社会科学の一方の視点に偏ることなく、俯瞰的・融合的視点が必要とされる。

４．一般からの意見の反映方法

すでに、自然科学の個別分野と社会・政策的側面を媒介する専門家として、科学技術社会論（STS）研究者があり、これらの一般の意見を一部代弁すると考えられる研究者を調査に参加させる。また、推進委員会を設置し、STS研究者のみならず、マスコミ、政策研究者、競争的資金配分機関関係者の参加を求める。

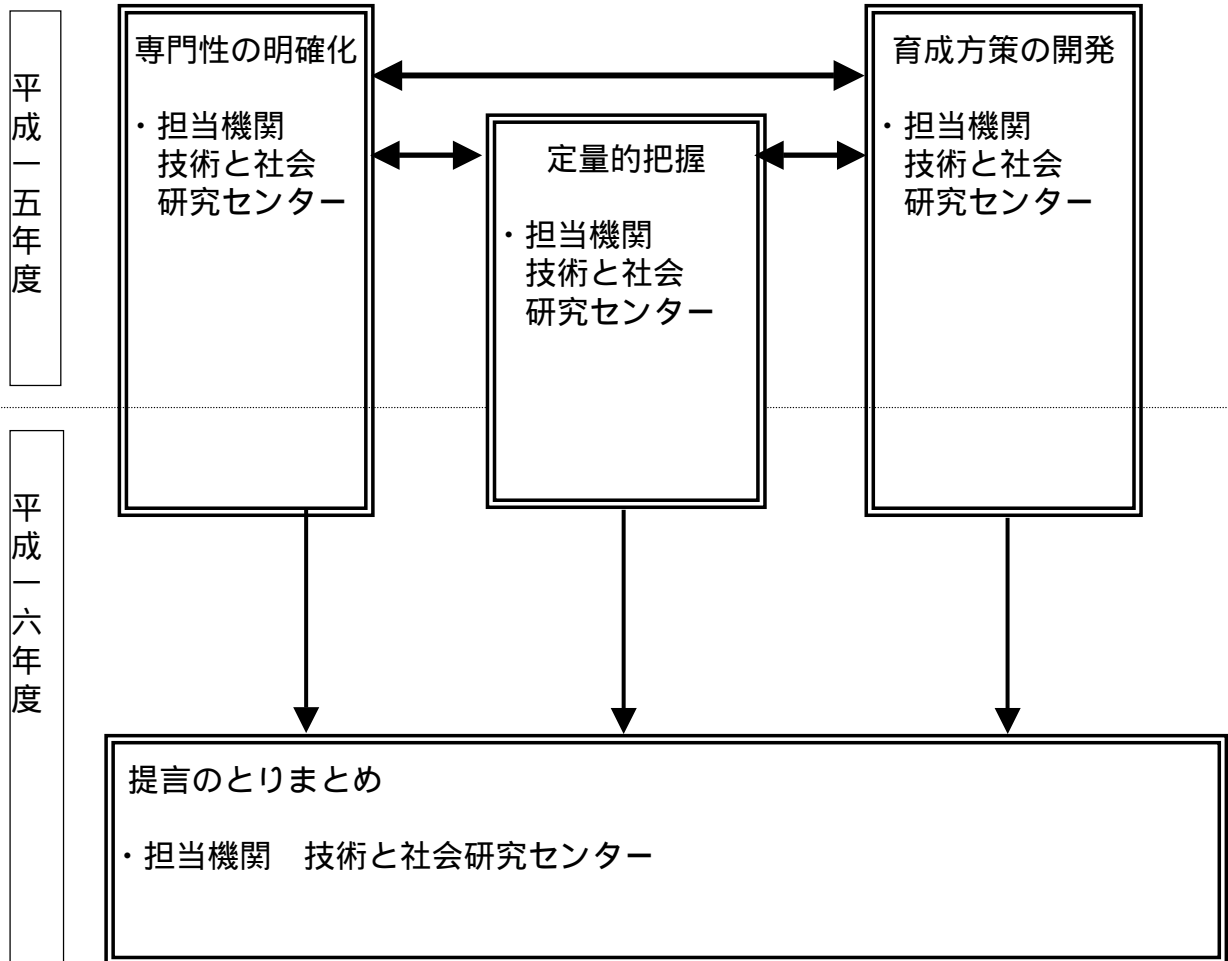
調査研究により期待される提言

研究開発システム改革にあたっては、環境整備や評価システムといった外在的条件の改革のみならず、研究者の行政への参画等、ノンアカデミックな研究者キャリアの内在的改革が求められる。また、そのための育成システムも整備する必要がある。

実施体制

- 調査研究課題名 「 研究者のノンアカデミック・キャリアパス 」
- 代表者名 「 小林 信一 」
- 中核機関名 「 独立行政法人産業技術総合研究所 技術と社会研究センター 」

プログラム・オフィサー等の育成確保方策



期待される提言：

研究開発システム改革にあたっては、環境整備や評価システムといった外在的条件の改革のみならず、研究者の行政への参画等、ノンアカデミックな研究者キャリアの内在的改革が求められる。また、そのための育成システムの具体的方策を提言する。

研究内容、手法の概要

